



## ReadMe for Wyse Virtual Desktop Accelerator 1.1

対象製品: Wyse Virtual Desktop Accelerator 1.1

ダウンロードモジュール

サーバーコンポーネント: WYSE Virtual Desktop Accelerator Server\_Prod.msi

Window プラットフォーム用クライアントコンポーネント(MSI):

WYSE\_Virtual\_Desktop\_Accelerator\_Client.msi

### ReadMe の履歴:

Version	日付	変更内容
1.0	2010 年 3 月	初版

### Version 1.1 における追加機能:

本リリースにおける追加機能を下記に示します。

#### 1. ホスト OS サポートの拡張

Microsoft 最新 OS である Windows 7、Windows Server 2008 をホスト OS としてサポートします。更に多くの仮想化環境において、画面転送の高速化が実行できます。

#### 2. コンフィグレーションツール

新しいコンフィグレーションツールを追加しました。これにより、VDA の通信における、MTU サイズ、VDA 利用のしきい値(フォールバック機能設定)などの詳細な設定が可能となりました。

#### 3. 通信ポートの設定

VDA の通信ポートを自由に設定変更することが可能となりました。これにより、システム環境に応じて、VDA 通信ポートの変更を行うことができます。

#### 4. エラーログのエンハンスメント

VDA のコンフィグレーションツールを通して、エラーログレベルを設定することが可能となりました。これにより、VDA 通信におけるトラブルシューティング時に、様々なログを取得することが可能となります。

## インストールコンポーネント:

下記表に、各インストールコンポーネントのソフトウェアスペックの情報を記載します。

### サーバーコンポーネント

ホストオペレーティングシステム上にインストールするサーバーコンポーネントのスペックを下記表 1 に記載します。

表 1. Windows プラットフォーム用サーバーインストーラ

コンポーネント	VDA サーバーインストーラ
Version	1.1.0.10
Build File Name	WYSE Virtual Desktop Accelerator Server_Prod.msi
Size(Bytes)	3,187,200

### クライアントコンポーネント

Windows ベースクライアント端末上にインストールするクライアントコンポーネントのスペックを下記表 2 に記載します。

表 2. Windows ベースクライアントインストーラ(MSI インストーラ)

コンポーネント	VDA クライアントインストーラ
Version	1.1.1.0
Build File Name	WYSE_Virtual_Desktop_Accelerator_Client.msi
Size(Bytes)	3,330,560

## 対応プラットフォーム:

Wyse VDA (Virtual Desktop Accelerator)は、クライアント/サーバー方式のアプリケーションとなります。下記に対応プラットフォームと要件に関して記します。VDA 機能が搭載されている Wyse Thin OS シンクライアントには、クライアントコンポーネントのインストールは不要となります。

## クライアントシステム要件:

Wyse VDA サーバーコンポーネント(バージョン 1.1)は、下記の環境に対応しています。

### 対応ハードウェア<sup>注</sup>

- ! **C クラスプラットフォーム**: C10LE(Wyse Thin OS), C90LE(Windows XPe), C90LEW(Windows Embedded)
- ! **V クラスプラットフォーム**: V10L/LE (Wyse Thin OS), V90L/LE(Windows XPe), C90LE(Windows XPe), C90LEW(Windows Embedded Standard)
- ! **R クラスプラットフォーム**: R90L(Windows XPe), R90LW(Windows Embedded Standard)
- ! **一般デスクトップ PC**: Windows XP, 7 等を搭載する通常の 32-bit デスクトップ PC



### 対応オペレーティングシステム

- ! Wyse Thin OS 6.4 以降 (Wyse V10L/LE, C10LE)
- ! Windows XP Embedded (Wyse V90L/LE, C90LE)
- ! Windows XP Embedded Standard (Wyse C90LEW, R90LW)
- ! Windows XP Professional SP2(32-bit)以降
- ! Windows 7 (32-bit)

注意: 日本国内では、一部の製品は販売していません。また、今後販売予定の製品も含まれます。V10LE/V90LEは3月中旬、C10LE/C90LEWは4月初旬のリリース予定です。C90LE/Rクラスの日本リリース予定はございません(2010年3月現在)。

### サーバーシステム要件:

Wyse VDA サーバーコンポーネント(バージョン 1.1)は、下記の環境に対応しています。

### 対応オペレーティングシステム

- ! Windows XP Professional SP2(32bit)以降
- ! Windows Vista (Ultimate, Business, Enterprise) SP1(32bit)以降
- ! Windows 7 (32-bit)
- ! Windows Server 2003 SP2 (32-bit)
- ! Windows Server 2008 (32-bit)

### 対応システム環境<sup>注</sup>

- ! VMWare View 3.0 以降
- ! Citrix XenDesktop 2.1 以降
- ! Citrix XenApp 4.5 以降
- ! Windows Server 2003/2008 ターミナルサービス
- ! その他リモートデスクトップ接続を基盤とするシステム(ブレード PC/コネクションブローカー)

注意: VMWare View 環境では、リモートデスクトップ接続(RDP)の Direct Connection モードのみサポートされません。

### 対応ネットワーク環境:

Wyse VDA は、Wyse 独自の UDP プロトコルをベースとして動作し、遅延ネットワーク上の画面転送のパフォーマンスを向上します。Wyse VDA を適切に動作させるためには、利用するネットワーク環境に一定の品質(帯域、パケットロス等)が必要となります。Wyse VDA は、TCP ベースの ICA/RDP プロトコルの UDP 変換のため、必要なネットワーク帯域は、ICA/RDP 画面転送に必要なネットワーク帯域とほぼ同等です。Wyse VDA の対応するネットワーク環境に関して下記にまとめます。

#### 対応ネットワークタイプ

- ! DSL (768Kbps 以上の帯域)
- ! E1
- ! T1
- ! T3

#### 対応ネットワーク遅延

- ! DSL: 90msec 以上
- ! E1: 90msec 以上
- ! T1: 90msec 以上
- ! T3: 20msec 以上

#### 対応パケットロス範囲

- ! DSL: 0%~1%
- ! E1: 0%~1%
- ! T1: 0%~1%
- ! T3: 0%~1%

### ネットワーク環境に関する注意事項:

#### 利用するネットワークポートに関して

Wyse VDA は、TCP ベースの通信プロトコルである画面転送プロトコル(ICA/RDP)を Wyse 独自の UDP ベースプロトコルによりデータ転送を行う技術です。UDP 通信により、従来の ICA/RDP(TCP ベース)とは異なる通信プロトコル/ポートをシステム環境内で利用することとなります。Wyse VDA では、データ通信のため、UDP Punch-Hole という仕組みを利用するため、システム環境内の通信ポートフィルタ(ファイヤウォール等のネットワーク機器設定)では、注意が必要となります。

Wyse VDA では、UDP Punch-Hole という仕組みで、クライアント→サーバーの UDP 通信ポートを最初に確立(Initial Communications Port)し、その後のデータ通信は、別のサーバー側 UDP 通信ポート(Available Session Port)でデータ通信を実行します(下記表 3.参照)。このため、一般的なネットワークポートフィルタリングにおいて、Initial Communications Port (デフォルト: UDP 3471 ポート)をクライアント→サーバー方向に開放しておけば、Wyse VDA 通信を確立することが可能です。但し、ポートフィルタリングの仕組みや、セキュリティ設定によっては、単純な Initial Communications Port の開放だけでは通信ができない場合があります。

Wyse VDA の UDP Punch-Hole の仕組みでは、最初の VDA 通信確立時に、Initial Communications Port (デフォルト: UDP 3471 ポート)を利用して、クライアント(UDP 動的ポート)

→サーバー(UDP 3471 ポート)で UDP 通信を確立します。その後のデータ通信においては、Punch-Hole の仕組みにより、初期確立したクライアント側 UDP 動的ポートに対して、サーバー側 UDP ポート(デフォルト: 4000 以降)から UDP 通信を確立します。これにより、最初の通信で確立した通信(クライアント動的 UDP ポート)を利用して、サーバー側ポートが変更された形でデータ通信が成立します。ネットワーク機器によっては、この様な通信方式を設定上許可していない場合があります。Wyse VDA 利用時には、本ネットワーク通信の仕組みを理解して利用する必要がありますのでご注意ください。

表 3. Wyse VDA 通信ポート(コンフィグレーションツールにより設定可能)

ポート	デフォルト値	設定可能範囲	説明
Initial Communications Port	3471	1029~40000	初期ポート
Available Session Port	4000~	1029~40000	データ通信ポート